

研究実施のお知らせ

2022年11月8日 ver.1.0

研究課題名

当院における生殖補助医療の治療成績に関する検討

研究の対象となる方

2018年1月から2022年12月の間に島根大学医学部附属病院で不妊症と診断され、生殖補助医療を受けられた方

研究の目的・意義

生殖補助医療とは、卵子に精子を体外でふりかける（媒精）、あるいは顕微授精させ、受精し発育した受精卵を子宮に胚移植する高度な医療技術を要する方法です。適応としては①卵管性不妊、②極度の乏精子症および精子無力症、③免疫性不妊、④原因不明不妊、⑤子宮内膜症などがあります。日本産科婦人科学会の「ART データブック」によると、2020年の生殖補助医療での妊娠率は全年齢で33.9%との報告があります。

妊娠率は女性の年齢に依存するところも大きく、生殖補助医療を行っても、治療成績は完全に年齢に反比例し、加齢とともに流産率の増加、生産率が低下するといわれています。妊娠率、生産率を上昇させるために、治療する上でさまざまな取り組みがなされています。

生殖補助医療の回数を重ねることは、身体的・経済的負担も増加するため、生殖補助医療への移行は、女性の年齢、出産歴などを考慮して個別に判断する必要があります。島根大学医学部附属病院産科婦人科（当科）における生殖補助医療の治療成績を明らかにすることで、今後患者さんひとりひとりに適切な治療法を選択するための一助になる可能性があります。

研究の方法

当院で生殖補助医療を行い、妊娠の有無が判明している患者さんのカルテから診療内容として、

- 1) 治療開始前
年齢、パートナーの年齢、妊娠・分娩回数、不妊因子、併存症、既往歴、手術歴、血清ホルモン値
- 2) 治療中
体外受精・顕微授精・胚移植成績（刺激プロトコール、薬剤、採卵数、成熟卵数、媒精方法、精液所見、受精数、凍結胚数、胚のグレード、移植胚数、胚移

植方法

3) 治療後

妊娠転帰（流産、継続妊娠、生産、死産）

を調査いたします。この研究によって得られる個人情報、決して外部に漏れることないように責任をもって厳重に管理します。また、病院関係者にも漏れることないように管理いたします。研究に用いる診療情報、解析データは島根大学医学部産婦人科学講座において厳重に管理します。

研究の期間

2023年1月29日～2025年3月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を特定できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部周産期母子医療センター 金崎春彦

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2023年9月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部産科婦人科学講座／附属病院周産期母子医療センター

金崎 春彦

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2268 FAX 0853-20-2264

研究事務局

島根大学医学部産科婦人科学講座

折出 亜希

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2268 FAX 0853-20-2264